

最上のわざ

皆さま、新しい年を迎えるにあたって、時間の経過を神の賜物として受けとることが
できますように、そして人生の旅のどこにたっても、子供、青少年、成年、または高
齢であっても、いつも神と共に歩んでいること、神を宿すことを忘れないために、
最近教えられたことばをお伝えさせていただきたいです。神の祝福を願いながら、皆
さまにとって、これから迎える一年が恵みで満たされた良い一年になりますように。

ポポン・エマニュエル

最上のわざ

この世の最上のわざは何？

楽しい心で年をとり、

働きたいけれども休み、

しゃべりたいけれども黙り、

失望しそうなときに希望し、

従順に、平静に、おのれの十字架になう――。

若者が元気いっぱい神の道をあゆむのを見ても、

ねたまず、

人のために働くより、けんきよに人の世話になり、

弱って、もはや人のために役だたずとも、

親切で柔和であること――。

老いの重荷は神の賜物。

古びた心に、これで最後のみがきをかける。

まことのふるさとへ行くために――。

おのれをこの世につなぐくさりを少しずつはずしていくのは、

真にえらい仕事――。

こうして何もできなくなれば、それをけんそんに^{しょうだく}承諾するのだ。

神は最後にいちばんよい仕事を残して下さる。

それは祈りだ――。

手は何もできない。けれども最後まで^{がっしょう}合掌できる。

愛するすべての人のうえに、神の恵みを求めるために――。 すべてをなし

終えたら、臨終の床に神の声をきくだろう。

「来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ」と――。

Hermann Heuvers